

議会に一言

男性 (60代)

女性 (50代)

2020年、夏季五輪・パラリンピックの東京開催が決定し、日本全国で喜びや期待の声が多く寄せられ、日本経済の再生に寄与するものと思われれます。

この湯沢町も長引くスキー産業の衰退で町民の閉塞感がある中で、「千載一遇」のチャンスだと思いません。それは我が湯沢町は都心からの新幹線、高速道と交通の便も良く、宿泊施設も充実しており、外国の選手の手合宿地として最高の立地であるので、ぜひ合宿地に立候補し、スポーツ施設の充実を図り、オリンピック後のスポーツ合宿地として発展することができると思っています。

町長さん、議会議員さん、行政の皆さまの決断をお願いし、期待する町民の一人です。

「議会だより」は、議員活動を知る貴重な情報源です。しかし、議会システムに素朴な疑問を持つことがあります。

一つは、一般質問についてです。*質問できる人数は限られているのでしょうか。全員が質問を希望した時にはどのように調整をして、質問者や質問順を決めるのでしょうか。最終的には、質問回数で多少で活躍度の評価をしてしまいます。一般質問は議員個人が日頃の活動の成果を行政に質す見せどころです。できるだけ多くの議員が質問できる環境づくりをお願いします。

もう一つは、各種ボランティア事業への参加のお願いです。住民の代表である議員は、地域の声を聞くことが第一義と思いますが、とかく票に結びつかない事業にも積極的な参加をお願いしたいと思えます。

一町民の立場で人材難と言われているボランティアとして協力していただければと願うところです。

様々なボランティア事業に携わっている方々の小さな声にも耳を傾けてほしいと思えます。

※人数は決まっています。質問順はクジ引きです。

女性 (40代)

私は湯沢で生まれ育った40代の母親です。この度一番上の子が就職先が決まりました。安心がついたところですが、本来ならば地元に戻り働きたいと考えましたが、就職先がありませんでした。他の子どもたちもいずれは湯沢で働きたいと考えています。

湯沢学園ができれば自然豊かな湯沢町は子育てには最高の地となる事でしょう。しかし、若者の就職先はどうでしょうか。議員の皆さまのお力添えで雇用の生まれる湯沢町を目指して頂きたいと思えます。そうすれば、赤ちゃんから老人まで安心して一生暮らせる町になると思えます。

追跡レポート [第8回]

これまでの質疑の中から一部を取り上げ、その後の経過を追跡してみました。

佐藤守正議員の質問 (平成24年9月議会)

問 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(27条)は「教育委員会は、毎年、その年の活動を自己評価して報告書を作成し、議会に提出するとともに住民に公表しなければならない」と義務付けているが、湯沢ではまだそれがなされたことがない。どうしたのか。

答 来年の9月議会に24年度のを報告したい。

平成25年9月議会の決算審査でのやりとり

問 昨年9月議会での教育長答弁では、この場で24年度のまとめを報告するということだったが、どうなったか。

答 役場全体で行う事務事業評価の中に、教育委員会が取り組んだ内容についての評価も含まれている。それをもって教育委員会の事業評価にしたいと思うが確認する。

結果

行政全体で行う事業評価と兼ねている市町村が多い。町としてはそれに準ずる。

問題点

法が要請しているのは教育委員会の活動報告である。教育課の事業評価でそれに替えられるとは思えないが、事業評価の結果報告が出た時点で、それが教育委員会の自己評価になっているのかどうか検討したいと思う。